

〈うれしさを、抑え切れない!〉

ジャーナリスト
松本 侑壬子

鉄人レースは、トライアスロンの

中でもまさに命がけのレースである。泳ぎ三・八^キ、自転車一八〇^キ、走り四二・一九五^キの全行程を走り抜き一六時間以内にゴールインしなければならぬ。ちなみに、一般のトライアスロンは一七時間以内に泳ぎ一・五^キ、自転車四〇^キ、走り一〇^キが基準である。この映画は、このとてつもないレースに、五〇歳を過ぎた父親と車椅子の息子が挑戦する話である。父は水中で息子を乗せたゴムボートを引っ張り、車椅子を押し、改造二人乗り自転車をこいで走り抜けるのだ。

だが、この映画はその大変さを描くのではない。車椅子の息子の強い意志に引き込まれる形で何十年ぶりに再び鉄人に挑戦する父親、息子を盲目的に愛する母親、弟思いの姉娘のそれぞれの思いがマラソンをきつかけに大きく成長し、豊かな家族愛をはぐくんでゆく感動的な人間ドラマだ。

アルプスの山々に囲まれ、深い緑と湖

のある静かなフランス・アヌシー地方に住む一家。長男ジュリアンは脳障害で車椅子生活の、今大人への入口に差しかけた一七歳。美容師の母親クレールが自分をいまだに「僕ちゃん」と呼ぶのが引かかる。しかし、問題は父ポールとのことだ。障害のある息子とどう接していいかわからず、逃げるように遠くに出張の多い送電線補修の仕事についている。冒頭場面の、目のくらむ山の尾根の上に立つ鉄塔の上での危険な作業がその姿だ。

しかし、山からへりで降りて来たポールは、失業していた。ジュリアンには絶好のチャンス！不器用なうえに頑固者の父と何とか打ち解けたい思いで、ある新聞記事をヒントに、鉄人レースに父子で出たい、と申し出る。だが、ポールに一言の下に却下され、ジュリアンは生まれて初めて自己主張。家出をし、学校のクラスメイトを動員してポールに「水泳

自転車、走ること。どれもみんなの夢なのです！」と迫る。

結局、ポールは自転車を改造し、ジュリアンに乗せて山道をトレイニングし始める。はじめ「息子を殺す気？」と大反対だったクレールも二人の熱意に、着替えや弁当を用意するなど、息子の成長を積極的にサポートし始める。

標高一、二〇〇mにも及ぶ険しい山道を自転車車で時速五五^キのスピードで下り、カーブを曲がり切れなくて怪我をすることも。だが、その合間には天にも上る幸福感に包まれる瞬間も。うれしさに思わず大きな雄たけびを上げる父子。登場人物たちの心理をきめ細かく追う一方で、画面ではフランスの大自然の美しさ、スピード感の楽しさも満喫できる。実際のレース中に撮影したという南仏ニースの海岸でのスタート場面では、二、七〇〇人が一斉に水しぶきを上げて海に飛び込むダイナミズムに目を奪われる。まるで水鳥かイルカの大群のドキュメンタリーを見るようだ。力尽き、ゴール寸前で倒れ込むポール。その時ジュリアンは……

実際の障害者であるジュリアン役のエローと父親役のガンブランが素晴らしい。その明るさと誠実な抱擁力とでもいおうか、心優しさと希望のこもった忘れ難い一本となるだろう。

『グレート デイズ！ —夢に挑んだ父と子—』

フランス映画 (90分)

監督：ニルス・タヴェルニエ

出演：ファビアン・エロー、ジャック・ガンブラン、アレクサンドラ・ラミーほか

公開中

© 2014 NORD-OUEST FILMS PATHÉ RHÔNE-ALPES CINÉMA

